



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

# 広島陵北ロータリークラブ

## - The Weekly Report -

～ クラブのテーマ ～

こころゆたかなロータリアン

～ 本年度会長方針 ～

奉仕の心で未来を築こう



2009-2010年度  
R.I.会長よりのメッセージ

第926回例会 2010年4月7日 No.898号

### ■ 会長時間



#### 会長 井林 孝二

皆様、こんにちは。本日は、清明節の話を御紹介します。今年は、4月5日が清明節の当日でした。広辞苑によりますと、旧暦三月辰の月の正節です。春分後の15日目にあたり、冬至から数えて105日目のことで新暦では、4月5日ごろにあたります。このころになると、春気玲瓏として草木の花が咲き始め、万物に清明の気があふれてくるという意味だそうです。晩唐の詩人、杜牧の詩に「清明」と題する詩があります。『清

明の時節雨紛紛 路上の行人魂を断たんと欲す 借問す酒家は何れの処にか有る

牧童 遙かに指す杏花村』さて、清明節の前日を「寒食」という。これに関する宋の詩人蘇軾の詩があります。「寒食の雨」という題がついています。『我黄州に來りし自り 已に三たびの寒食過せり 年年春を借しまんと欲すれども 春去つて惜しむを容れず 今年又雨に苦しむ』この詩からも、どうも清明節のあたりにはよく雨が降らしい。寒食というのは、清明節の前日が一日中火を用いない日なので、食べ物に火が通せないから、あらかじめ寒食用の料理を作っておくようです。寒食の翌日、すなわち清明節から新しい火を用いるのである。なぜそんな風習があるのか、実はここからが今日の本題です。それは、中国全土の人々が介子推という人物を悼んでいるというあらわれです。介子推が山にかくれたあと重耳が山に火をかけ、介子推があらわれるのを待った。ところが介子推は下山せず、木を抱いてついに焼死したという伝説があり、後世の人々は介子推の忠節とところざしの高さに感動し、その死を哀痛し続けるため、火を使わない日を国民的行事として設けたのである。なんという国民でしょう。ちなみに重耳という人は今から2600年ほど前の中国春秋時代の人で普という国の王子でしたが、60才近くまで国を追われ流浪しました。後に齊の桓公と並び称されるほどの覇者になりました。この重耳が流浪している間数百人の家臣たちは辛酸をなめました。でも、重耳が王位についてからさめ細かな表彰をおこない、見事な政治をした事は事績として残っています。重耳が流浪中に家臣がどのようなことをしたか全て知っているわけではありません。従って人に言ってもらい、自ら売り込むが主体でしたが、介子推はそれは、潔しとせずに山にこもったのです。その後重耳も、介子推の自分への忠節を知りそれに報いる為に山に火をかけさがしたのです。ただ、介子推は、『下はその罪を義とし、上はその姦を賞し、上下あい蒙く』と言ってそのような人たちがいる場所に二度と戻らなかったのです。今日は長い話御静聴ありがとうございました。

#### 今回の例会(4月14日)

##### 会員卓話

信原 弘 会員 鈴木 大次郎 会員

#### 幹事報告(川中幹事)

##### ■BOX配布物

- ・ロータリーの友
- ・ガバナ一月信

#### 次回の例会(4月21日)

### クラブフォーラム

#### 銀婚式



山田会員が3月に銀婚式を迎えられました。おめでとうございます。

#### 出席報告 (山田例会運営委員)

##### 4月7(水)出席者

会員総数	42名
出席会員	33名
欠席会員	9名
ご来賓	0名
ご来客	5名
ゲスト	0名

#### 来客者紹介 (高野親睦家族委員)

##### 4月7(水)出席者

益田RC	1名
広島RC	2名
広島南RC	1名
広島東南RC	1名

【例会】 毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】井林 孝二 【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F

【TEL】082-221-4894

【幹事】川中 敬三 【ホームページ】<http://www.ryohoku-rc.jp/>

【FAX】082-221-4870

会員卓話

『私の仕事とロータリー』



安土 義和 会員

～「平成徳政令」について～

昨年12月4日施行された「中小企業金融円滑法」いわゆるモラトリアル法案ですが、これは亀井大臣肝入りの目玉法案です。つまり中小企業における窮状を真正面から捉えた真摯な経済政策であると認識できます。

がしかし、果たしてこの法案を利用することが、中小企業にとって本当に良いのかどうか我々職業会計人は悩むところです。何れにしても借りたものは返すのが道理です。たちまち3年関資金繰りは楽になります、その間に日本経済が回復しデフレから脱却し売上が伸びる保証はどこにも無い訳ですから、やはり常日頃からしっかりとした経営計画を立てて地道にトップ自身が努力することが重要と考えます。

ここに資料として、昨年12月に日本振興銀行が小規模企業・個人事業主約9,100社余りに実施したデータがありますので、ご紹介させていただきます。

(1)景況感について

- ①「景気は良いですか？」  
「良い」4%「普通」33.1%「悪い」62.8%
- ②「先月は黒字でしたか？」  
「黒字」15.6%「トントン」57.9%「赤字」26.5%
- ③「資金繰りはどうですか？」  
「楽だ」1.2%「普通」46.3%「苦しい」52.5%

(2)業況について

- ①「売上は先月より増えていますか？」  
「増えた」19.1%「変化なし」57.1%「減った」23.8%

以上のように中小企業・個人企業のオーナーは大変な状況にあることがわかります。税収も赤字企業の増加により落ち込みが激しく、今まさに日本経済はデフレ不況の真っ只中であり、いつこのデフレから脱却して景気が良くなるかは先の総選挙で政権交代した民主党の経済政策と経営者の行動力にかかっています。

ただ暗い話ばかりではなく、明るい話題も出て来ています。このデフレを卒業しようと大手企業自らその機運が高まっています。この稿が出る頃には少しは明るくなっていけば良いのですが……。



串井 武憲 会員

串井武憲と申します。今月は私の誕生日で63歳になります。R.C.の関係で今まで地域との関わりを振り返りますと、小学校でP.T.A.の役員を14年間(内会長10年)しました。又、お寺の関係では、副総代長を16年間続けています。そして、町内会の会長を4年間続けています。そして何と言っても会社に入社しまして38年になります。

木材業界の話しますが、前にお話した様に、最初はフィリピン・インドネシアの南洋材を消費し続けて、米国・カナダの米松、米木材を使い続けて、ソ連材・ヨーロッパ材・赤松材を使用しました。為替等、色々な問題が生じまして、今、日本の木材の利用の方向が変わっています。考えて見ますと、昭和20年代に日本の山の木材を切るなどという方向が打ち出され、山の木を守れと言われ、木材の使用を制限され、学校とか公共建築物から木材は姿を消えました。今又戦後60年が経過して、今度は木材を使え、戦後の植林が切り時に来た。また、CO2の関係で山の木を使え、また、植林してという方向に打ち出されました。今、新生産システムが取り入れられ、住宅資材供給の延長線が多いですが、最近では環境関連や国産素材の下級材活用としてバイオマスへの取り組みが見られる。新生産システムとして次のとおりです。

- 三陸木材高次加工協同組合(岩手県住田町)
- ハイチェックウッド(秋田県山本郡)  
奥久慈木材流通センター
- トーセングループ(栃木県北)
- 久万広域森林組合(愛媛県)
- 中国木材(佐賀県伊万里市)
- 日田ウッドコンビナート(大分県日田)
- 中国木材(広島県大朝)

等で話しが進んでいます。又、今度も木材の流れが大きく変わっています。又、私のお客様も充分と変化し、公共事業木材の建設会社から地域主体の建築業者へと建物木材のプレバブ2×4等色々あったが、又、在来軸組工法へと変わってくるでしょう。本物の家と住む人の家へと変わって、おもしろいことです。何かと木材業界も新しい風が吹いています。

SMILE BOX

田中照章 会員、鈴木大次郎 会員

先週の夜間例会では陳潔さんのために会員の皆様よりあたたかい御出宝をいただき、大変ありがとうございました。陳さんの様な中国人が一人でも多くなる事を念じております。上海の方での結婚式も予定されている様でした。会員の皆様も是非ご出席してみたいかと思いますが……。

SMILE BOX

鈴木大次郎 会員

孫が小学校へ入学しました。スクスクと育ってくれる様祈っている毎日です。

石川貴与和 会員

4月3日桜満開の上賀茂神社にて、次男が結婚式を挙げました。これで三人の子供全部片付いてしまいました。

当日計	46,000円	累計	725,000
-----	---------	----	---------